

彦とはすぐれたおとこの意。てんひこは豊かな未来を創造する者たちの集団である。



てんひこ

発行所 **株式会社天彦産業** 東大阪市長田西5丁目10番地 電話 (06) 744-1701 (株)
編集発行責任者 T. H. グループ (山川隆男 樋口友夫 萩原利武 武田恒夫 大津卓見)

創業 111年 への幕開く

明治八年正月八日、初代彦三郎氏が滋賀県甲賀の里に、前挽鋸製造業として『天彦』をスタートして以来、本年、昭和六十年一月八日で満一〇年を迎えた。現社長まで四代、その歴史を振り返ってみよう。



(初代 彦三郎)

初代彦三郎氏は、前挽鋸製造の實仕事が主体であったが、明治十年現本社を購入後は前

挽鋸製造販売業の基礎をきずき、日本各地へ販路を拡げ、『天彦』のブランドを定着させていった。

大正五年、二代目彦三郎氏に受継がれた『天彦』は、種々のアイデアを発掘して鋸の通信販売制度をつくり、前挽鋸だけでなく各種鋸、打刃物も



(二代目 彦三郎)

扱い、金物問屋として遠く海外へもその販路を伸ばした。昭和八年、三代目彦三郎氏

(現会長) は二代目の急逝によって二十二才の若さで受継いだ。だが、戦争等で暗黒の時代に入り、その波は大きかった。昭和二十二年、大阪市西区に出張所を開設、徳山鉄板(現日新製鋼)や木下産商(現三井物産)の協力を得、鋼材販



(三代目 彦三郎)

現社長は過去三代の歴史を基盤に着実に伸ばし、特に「流通業の資産は人」をスローガンに積極的な人材育成を継続中である。

一〇年から一一年へスタートした今、全社員の決意も新たに頑張っています。



(四代目 現社長)

この間、三代目は勲四等瑞宝賞・黄綬褒賞等、数々の功労賞を受賞し、その名を世に残し、昭和五十八年、四代目克彦氏(現社長)が受継いだ。

売を兼業し今日の特殊鋼問屋としての基礎をつくった。その後、昭和四十七年に東大阪市の現在地に大阪営業所を新築移転、シャーリング等を設置し、加工部門への進出を果たした。

創業一一周年目への

新しい天彦づくり

社長 樋口 克彦

昭和の還暦と云われる昭和六〇年に、我社は創業一一〇周年を迎え、今年を人材之年と位置付け一一一年目のスタートをきったのであります。戦后四〇年を経て、物質文明の頂点とも思われる成熟社会を実現した我々は、振り返ってみるに、そこには反面大きなものを失いかけていたような気がしてなりません。

それこそ人の心の大切さではないでしょうか。現代は個性的な商品が良く売れると云われます。人々は商品を通して心の豊かさ・満足感を買っているのではないのでしょうか。企業間の取引に於ては、品質・価格等が大きな要素であることには違いないわけですが、それ以上にこの会社と取引しければ安心であると

云う信頼感が大きな比重を占めていると思います。

又、社内の仕事にしても、次の工程への思いやり、心くばりが仕事の質を高めていくことになると思います。例えば営業から現業への出荷指図書ひとつをとってみても、どの様に書けば読みやすいか、処理しやすいかという事を考えて仕事をすることにより、一枚の伝票を通じて心の交流が行われるのです。

商品・市場・新事業等の開発に於ても同じことがいえまゝす。物事に対する知識・経験ももちろん重要なポイントですが、直感力・感性を磨くことによって得られるヒラメキが、より大きな成果を作り出すことでしょう。ヒラメキとは物事に対するあくなき追求心を持ち、悩み、苦しみ、考え込むことによって生まれてくると思います。

マルクス・アオレスの言葉に「君の肉体がこの人生にへこたれないのに、魂の方が先

にへこたれるとは、恥ずかしいことだ」と云うのがあります。

人間は気持ちの持ち方次第で肉体をコントロールし、より強靱なものに出来る反面精神的なものがその肉体を廃物化してしまう怖しさも持ち合わせていることを教えていると思います。

人の心の大事さを常に意識の中に持ち続け、仕事とはより良い自分を作るためにするものであると云い聞かせTH活動最終年に際し、その精神を心の中に定着させなければなりません。

TH活動

TH まず考えよう。常に問題意識をもち、解決すべき問題を発見し、一段高い目標を達成しよう。

H 心・体・企業健康管理をし、積極的行動と挑戦的な意欲をもち、天彦の社会的存在価値を高めよう。

職場活性化の一環としての提案制度について

企画管理部長 加 田 公 彦

吾が社の提案制度が発足して既に十年近くが経過しましたが、この間の提案状況は必ずしも活発に行われていたとは言えません。そこで五十九年度TH活動の一環として本制度の見直しを行ないその活性化をはかることを目的として社員一名当り月間三件以上の提案を目標とし、その事務局を企画管理部として実施することが年度初めの全社会議で決定し運営されて来ました。

本来提案制度は職場内における業務改善、原価低減、品質向上、その他広く業務上の改善策について社員から提案を求め、これを審査組織により審査し、その中で優秀なものについては採用実施を検討するものであります。その主旨は職場における社員の創意工夫を奨励して仕事の改善による直接的利益をはかるという点にもありますが、それよりも重要なことは社員が積極的に改善提案をすることにより経営への参画意識を高めるとともに社員相互のモラルを高揚し、もって職場の活性化をはかることにあります。したがってこの制度を成功させる鍵は制度の主役である社員各自が日常業務のすべてに対して問題意識と改善意欲をもち、一件でも多くの提案を出すことにあることを特に認識していただくと思います。なお今年度十二月までの総提案案件数は三三三件、うち採用案件若くは実施方法を検討の上で採用と決定された案件は実に三〇九件にのぼっており、また採用決定案件のうち即時実施可能なものは既にその殆んどが実施済みであります。また提案された案件の内容により委員会にその実施方法の検討を委託されたものもあり、これらの案件については当該委員会の検討結果をまっ

て最終決定がなされます。

五十九年「天彦賞」に

山川氏受賞ノ

成長賞に茨木・大津両氏
新人賞は広瀬女史が受賞

今回より新たに設けられた制度で、年間（一月～十二月）に最も社会的にも人間的にも成長著しい社員に贈られる賞である。

中でも「天彦賞」は最も成長著しい人を対象に、「成長賞」はそれに準ずる人を対象に選出される。又、昨年は六名という多数の新人を迎えたことから特別賞として「新人賞」が設けられた。

選出方法は、十二月後半にまず全員がその対象と思われる三名を各々投票、その結果を幹部会にて審議。最終的に社長が決裁され、翌年の初出式の際に発表の運びとなる。

栄えある第一回「天彦賞」には営業部の山川隆男氏が、「成長賞」には現業部の茨木

繁雄・大津卓見両氏が、「新人賞」には管理部の広瀬浩子さんが選出された。

社員にとって非常に励みになり、また活性化の一端としての効果もあり、全社員、六十年の「天彦賞」「成長賞」をめざして自己啓発に努めていきます。

以下、各氏の受賞喜びの声。

天彦賞 賞状及び高級紳士服
山川隆男氏喜びの声

「天彦賞・成長賞が創設されて第一回の天彦賞に選ばれて大変光栄に思っています。孔子のことばに、われ十五にして学を志す。三十にして立つ。四十にして惑わず……」

……」があります。昭和二十九年生れの小生も五十九

年は、立つ年の年でした。自分

としては特に歳を気にはしなかったつもりですが、やはりこの

辺も自分自身の気構えに作用したのではと思います。

今年は知識の蓄積の年として読書、各研修会講習会の積極的な参加を目ざし、二年連続のMVPを獲得する様

努力します。」

成長賞 賞状及び電気カーベ
ッ ト
茨木繁雄氏喜びの声

「入社当時からシャーリング部門一筋で来た私ですが、自分自身の変化もこの会社の変化と共にあったと思います。個人のレベルアップの為、数々の教養が要求され、その都度職人肌で良いと思っていた私は「自分の与えられた仕事

さえしていればいい。今さら勉強なんて……。」と反感さえ覚えていました。そんな意識を変えたのは我現業部の組織が確立した時でした。

客先の要求品質が高度になり

とても自分一人では対応できません。やはり現業部全員が

各々の部門で同一の目標に向かって日常業務を行なう必要

があります。職人肌だけで解決できるものではありません。

そんなこともあり、五十九年はハッラツ委員長として、積極的に活動しました。これらの事を高く評価してもらい、

感激しています。」

成長賞 賞状及び高級紳士服
大津卓見氏喜びの声

「入社二年目にして、このような栄誉ある賞を得、喜びで一杯です。然し乍ら、私にはまだまだやらなければならないことが数多く、浮かれてばかりおられません。この成長賞を上げみとして、今後一層自分自身を伸ばしていきたいと思っております。」

新人賞 賞状及び高級腕時計
広瀬浩子氏喜びの声

「新人六名の中から私が選ばれたのには驚いています。

現在経理の仕事をしておりませんが、満足のいく仕事はできてないと思っています。

新人賞というのは、ある意味で今後の期待賞だと思います。ですから、今後の仕事や委員会活動等でその期待に応えられる様頑張りたいと思います。ほんとうにありがとうございます。」



商都大阪で働こう

パート6

齊藤 安平

関西にも万国博が開催される事がほぼ決まり、公共事業も忙しくなる空気が中小企業の我が社にも明るい光を窓越しにも見える距離に近づいて参り、世の中も自然に変化すると共に、企業も変わり乍ら前進致して参りました。

世間は万博だ、それ世界的な事業が関西で催されると言う事実があり、我々中小企業にも活力が沸き出し、世間はまた見ぬお祭りを予測して、物価は上り、特に土地の価格が一年間に一ケタ違ったのではないかと思われる勢いで何事にも金の価格が上昇して参りました。

昭和四十三年、当時天彦も三十年代と比較にならない力をつけ、売上も伸び、社員には特別の金一封も支給され、やれば必ずその見返りが出てくると心の深くに自然、力の

泉が沸き出るのを覚えました。当時急に変わった事と言いますと、まず、三十年代の営業の足は自転車からバイクであったが、四十年代に入るや、バイクが四輪車に変わり、両サイド何も無かったのがドアがあり、寒い時や雨の時には非常に喜ばれたものでした。

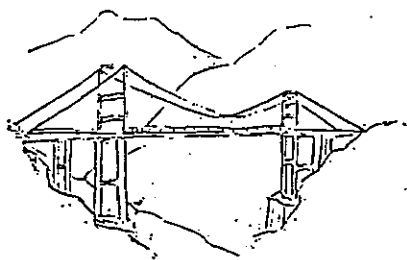
たゞ不満だったのは、貸倉庫で現在の様にクレーンもチェンブロックもなく、荷物の積降しは全く人力にたよる作業だったことでした。中には、帯鋼などはデコを利用して積み込むこともあり、現在なら何人も逃げ出す作業が自分の日課でもあり、営業事務の一端であったのでした。

世の中は大阪で開かれる万博の準備が着々と進み、それに併う道路、ホテル等、関連事業で景気は上向きっぱなしで、サラリーマンの我々にもその恩恵をうけておりました。しかし、昭和四十五年に入りこの年は例年になく三月になっても寒さが続き、万博の開

幕が数日後に迫っても、天候の回復はあまり期待されませんでした。

昭和四十五年三月十五日、待ちに待った万国博は開催され文字通り世界の国からこんにちとはと各国から連日のお客様でにぎわっていました。雪の降る中での万博スタートで、後の不安を予測していたのではと今から思うと……。

次号は急変する姿を報告します。



一級特殊鋼販売技士

(ステンレス鋼)誕生

十大ニュースの七位にもランクされましたが我社に一級特殊鋼販売技士(ステンレス鋼)が二名誕生しました。

全日本特殊鋼販売組合連合会主催で今回は東京と大阪で開講されました。昨年の四月から六月にかけて一回二時間で六回の研修講座を受け、七月六日に鉄鋼会館で試験がありました。参加社数十九社、人員五十五名でステンレス鋼十二名、工具鋼三十二名、構造用鋼十二名の三コースで当社からはステンレス鋼を受講しました。

以前からも、三級販売技士は五名おりましたが、ステンレス販売活動をしていく上では今回の研修受講、販売技士誕生はプラスになる点が多くあると思われまふ。

連日連夜の猛勉強からみこ

とに合格したのは樋口友夫、池口敏正の両氏で試験が近づく頃には特別に社内勉強会を開いておりました。

ステンレス鋼全般の技術的な講座で営業マンにとっては一般的な知識以上の専門分野の研修であり、又、当社においては従来から扱い馴れた構造用鋼等の特殊鋼と違い説明を聞いていても不明な点もあり一つ一つの問題点を理解するのに時間もかかりましたが事例をあげた説明と受講者の熱心な努力がむくわれたものと思います。

今後ステンレスの販売をしていく上で客先のニーズに合った対応をさせていただく為にも、価格、納期はもちろんですが、こういった技術的なお問い合わせにも、微力ながらではありますが協力させていただきますので、今後尚一層のご高配の程、宜しくお願い申し上げます。

営業部

昭和五十九年

天彦産業

十大ニュース

- 第一位 T.H活動最終の年
- 第二土曜の社内研修・提案制度の確立
- 第二位 年商二十五億突破
- 第三位 会長代表職退任
10、12月には病魔克服
- 第四位 天彦賞・成長賞の創設
- 第五位 新人最多六名入社
平均年令大幅に下がる
- 第六位 新ユニホームで早朝ジョギング開始

第七位

資格取得者続出

ステンレス販売一級技士

樋口友夫 池口敏正

玉掛免許

宮浦高敏

第八位

三委員会合同課外研修

グリーンピア三木にて

第九位

パソコン導入、電話設備

の新鋭化

第十位

新出女史(旧性中島)

結婚退社

次点

ステンレス拡販スタート

アマダ工場見学

午後三時の体操スタート

第一工場入門場所整備

屋上改修工事、物置設置

竹森氏優良従業員表彰

久居研修三名参加

ジョギング前の準備体操



課外研修・三木資料館にて



(慰安旅行)

熱海・アマダ本社見学

十一月十・十一日の両日の

日程でアマダ本社・熱海の慰安旅行が行なわれた。

アマダ展示場ではその規模の大きさに皆んな驚いた様子でしたが、やはり我々に関係のあるシャーリング機の前では長時間足を止め、説明に聞き入っていた様です。それにしても最新技術の集約された各マシーンを目で見、耳で聞き肌で感じたことは有意義でありました。

宿泊は熱海のデラックスホテルで慰安には最適な温泉の湯に体を沈ませ風流な気分を満喫しました。天彦恒例の宴会は今回なくちょっと残念でしたが、引田天功のマジックショウを見ながらの夕食は一味違って楽しいものでした。この旅行には各自我社のトレーニングウェアを持参しており、ハッラツ委員会の発案で

翌日早朝ジョギングで熱海の

海岸を走ることになっていましたので、六時半起床を約束

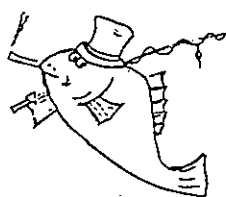
に三々五々各自の部屋へ。

しかしながら、宴会が無いとい

うのは淋しいのか各部屋から歌・笑いの連発、お決まりのハッパニングが数々起き、さすが我社の慰安旅行だと感じさせられた一コマもありました。

そして翌朝ほとんどの人が目を赤くし、疲れた様子でジョギング・スタート。ロマンスが語られる熱海の海岸を走る快足は格別で二日酔いもすっ飛んでしまいました。(?)

新幹線の中、ホテルの中心で自分達の城の様にしてみよう天彦軍団、この活力を仕事に大いに使って欲しいものです……失礼。



委員会だより

ピカピカ委員会

行事計画の九十パーセントは達成したと思える。残された日数で残り十パーセントをやり遂げる様頑張りたいと思います。

今年の行事の中で、会議中の禁煙、お客様の協力を得ながらの午前中社内禁煙は定着したようです。又、一部の車を禁煙車に設定し、各自の健康管理、安全美化に貢献できたと思っています。

四S(整理・整頓・清潔・美)の一端として、各自の机の周囲のチェックも三ヶ月に一度行ないましたが、成果はあったものの満足のいくものではありませんでした。良い仕事は四Sが実行されていないとできません。一層のご協力をお願いしておきます。

私達の委員会はQC活動の初歩的要素があると思ってお

りますが、ここに我社のお得意様であるOKMのQC活動の一例を紹介しておきます。

OKMでは品質向上・コストダウン・納期短縮の三項目を目的とし、仕入先各社を点数によって評価している。評価基準として、価格・納期・品質・クレーム処理・営業マンの態度等をあげ、三ヶ月毎にその得点と共に各社々長宛に報告している。(我社はや々と平均点になったが……)

他社の評価をするというのは相当の決断がある。勿論、仕入先にとって気分のいいものではない。しかし、あえてこの事を行って少くとも我社、担当者にとってプラスになったし、このOKM社の評価は我社にとっても高いものとなった。

QC活動とはこの様に、そのメンバーだけでなく、周囲を含めた全員一致の活動が成果をもたらすもので、我委員会も全員の協力を得、益々の発展をしたと思っています。

ヒラメキ委員会

現在までは予定通りの活動状況だと思っています。しかし、今までのパターンを繰返している点も多々ありますが、少しは進歩していると思います。特にメインの朝礼については完全に定着したと思うが内容的な面で、もっと大きな飛躍が必要だと思っています。では、飛躍するためには何をすればよいかわですが、朝礼の目的を理解し充分な準備をしたり、話法を学ぶことだと思っています。

朝礼大賞については、全員で収録テープを聞いて採点し、選出しているわけですが、その採点内容、方法に改善の余地がないか検討中です。

課外活動については、三年ぶりに三木グリーンピアで実施しました。今回の目的は、新入社員が多数参加することもあって、一に親睦、二に体力測定による体力向上、三に社外でのマナー、モラルの向上の三つでした。それぞれの目

的はほぼ達成されましたが、反省点も多く、下見が不十分だったこと、計画の変更にスムーズに対処できなかったことがそれです。

今後については、かねてよりの懸案である図書の利用について早急に具体策を検討したいと思っています。

ハツラツ委員会

体力向上、健康維持を目的とした活動の中で我が委員会のハイライトは何といっても早朝ジョギングの実施といえる。昨年十月の三委員会合同

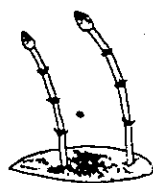
の三木グリーンピアでの課外活動のうちに全員のトレーニングウェアを天彦カラーの統一した物にと提案がされ、この有効利用の一つとして始めたジョギングですが、最低毎週一回、約三キロのコースを走っています。又昨年の慰安旅行では全員が熱海の海岸をジョギングしてきました。

人がやるから自分もやると

いう消極的な態度でなく、自分自身の健康管理の為に行なうんだという再認識も必要だと思っています。又、速さを競うマラソンレースの様な走行ではなく一定のリズムで自分のペースを守り、ゆっくり時間をかけて走るというのが、もっとも効果が大い様です。

年度末には年間ハツラツ大賞を予定しています。これは年間を通じての健康カードの採点、ボーリング大会の成績ジョギングの参加率、その他日頃の体力向上、健康管理を基準にして今後のはげみとなる様、考えております。

ハツラツ委員会は、健康維持の為、頭を使い、理想的な運動量を自分で確認させ、目標を定め長く続行していけるように指導していく方針です。



新入社員紹介

園田昌彦氏

昭和59年7月21日入社

四トン車配送担当

(血液型 O型)

昭和三十九年一月十七日生まれ
の二十一才。今年一月十五日にめでたく御結婚され、新婚ホヤホヤで、幸わせ一杯の毎日だそうです。

今後の計画として、二十五才で子供を持ち、三十五才までに自分の家を作るとか・・・頑張ってください。



巽 裕子さん

昭和59年10月20日入社

コンピュータ担当

(血液型 O型)

昭和三十七年九月十五日生ま

れの二十二才。車が好きな彼女。毎朝マイカーでさっそうと出勤されています。

他にも水泳など、スポーツウーマンの彼女ですが、お菓子作りもお手のもの。クッキー

スポンジケーキ、シュークリームなどがレパートリーだそうです。仕事の面でも、なかなかのファイトウーマンで日常業務にあたっておられます。



前山正実氏

昭和60年2月18日入社

現業部所属

(血液型 A型)

昭和三十七年五月二十三日生まれの二十二才。スポーツマンタイプの彼は、夏、冬関係なく、ウィンドサーフィンを趣味としています。他にも車好きで、鈴鹿サーキットでレ

ースにも出場しているそうです。人なつこい性格で誰とでもすぐ友達になれるといった長所を持っている反面おちよこちよいで、一日一回はつまずいて転ぶとか……。ケガのない様に……。



高田健司氏

昭和60年2月18日入社

現業部所属

(血液型 AB型)

昭和四十年十月二十一日生まれの十九才。彼の短所としては、少々気が短い所があるそうですが、反面誰とでも仲良くつき合えるといった長所がカバーしているそうです。車が大変好きという彼、今、どの車を買おうか思索中とか……。

会社の中では一番若い彼です

から、何事にもチャレンジ精神で頑張ってもらいたいものです。



横田尚久氏

昭和60年2月21日入社

現業部所属

(血液型 AB型)

昭和三十年十月二十一日生まれの二十九才。双子の兄弟で彼は弟さんの方だそうです。特技、趣味は、野球をやっておられ、名ショットの噂もある様です。そして読書家でもある彼ですが、おちよこちよいで、よく服を着たまま寝てしまうことなど日常茶飯事。来年には、結婚も内定されているそうで、彼女の分も頑張るとはりきっておられます。



松島美龜生氏

昭和60年3月21日入社(内定)

管理部所属(予定)

(血液型 AB型)

昭和三十六年二月二十七日生まれの二十四才。和歌山出身で今年3月に大学卒業予定。性格は、おとなしいと自称されておられますが、その実態は……。

趣味は、バイク、スキー(バツテスト二級の腕前)。ラーメン食べ歩きなど沢山の趣味を持っておられる彼。現在現業部にアルバイト中。頑張ってください。



“主人を通じて見た

天彦産業”

池口 洋子

主人を通じて見た天彦産業という課題で一筆という事ですが、書くことなど大変苦手な私にとっては難かしく、思う様に書けませんが、私なりにペンを執って見ました。

主人が入社して六年の歳月が経ちました。あっという間に過ぎた様にも思いますが、主人にとっては大変な日々であつただろうと思います。今こうして天彦産業の一員として勤められる毎日を幸福だと思えます。

と言いますのも、入社以前、八年間は自営業で、仕事の方もやっと軌道に乗って来て、さあ、これからという頃にドルショック、続いてオイルショックと個人経営には厳しい苦難の日々が続きました。果してこのまゝ続けていいものか疑問さえ残りました。

決して弱音を言わない人ですが、考えに考えた末この仕事

に終止符を打つ決心をした様です。丁度その頃、

「創業百五年天彦産業」という会社が目に止まりました。創業年数の永さに、きっと優秀な業績を持つ会社に違いない、それに伝統を受け継いで来られた社長もさぞりっぱな方だろうと感じ、そんな会社で働けたらという思いでした。

余り仕事の話はしませんが自己啓発における社員教育、研修、委員会活動、ジョギング、朝礼等の話をしてくれる主人の目は輝き、言葉は弾みます。狭い視野でしか見られなかったのが、天彦産業の器の中でいることに依って大きな視野の持てる人になれたと思えます。

社長は「会社のために働くな、自分のために働け」とよく言われるそうですが、この言葉を聞きまして社長長の心の奥底までも伺われます。家庭に於きまして、時あるごとに学ぼうとする主人の姿に、私も家庭の主婦であつて

も大いに勉強しなくてはと思えます。

これからの健康には充分気を付けて頑張つてほしいと願っております。

筆者紹介

池口洋子さん（いけぐち・ようこ）四十才

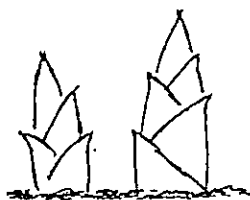


大恋愛の末結ばれたとあって観察力抜群のこの文面はすばらしいの一言。趣味はスケッチ、登山と多彩

で、日曜日等によく家族で生駒山に登つてスケッチを楽しむとか。（本紙のイラストも御主人の力作です。）

性格は明るく、若々しく、チャレンジ精神旺盛な奥さん。結婚歴十六年、我社一のおしどり夫婦とか……。

で、日曜日等



● 編集後記 ●

五十九年度としては最終号となりました。

六十年度からは新メンバーでスタートします。編集面でも工夫をこらした物をつくっていきたく思っておりますので尚一層のご愛読の程、宜しくお願い致します。

懸賞クイズ

第三回発表

正解 創業一〇周年

応募総数三十五通、正解者数三十五通、正解率一〇〇％でした。前々回の投票率の低さは問題がややこしく若干むつかしかった面もあり前回とは簡単な問題にしたところ一〇〇％の正解をいただきました。正解者多数により抽選で十名様に賞品をお送りします。今回も正解者の中から十名様に豪華な賞品を用意しておりますので振って御応募下さい。

第四回 問題

昭和五十九年は新人が何名入社したでしょう。

送り先 天彦産業
〆切り 五月末日